

「教養日本力」高度化推進プログラム 台湾調査報告

訪問先	文藻外語学院 日本語文系
調査日時	2007年12月22日 14:00-18:00
調査対象者	文藻外語学院 日本語文学系 謝億榮 助理教授 高苑科技大学 応用外語系日文組 王雯儀 講師
訪問目的	1. 「教養日本力」高度化推進プログラム主旨説明 2. 訪問校における関連事項に関するインタビュー 3. 訪問校から本プログラムに対する要望の確認
調査方法	独自に作成した項目に従ったインタビュー、写真・録音記録
調査結果	<p>【コース概要】</p> <p>①文藻外語学院 日本語文科 高雄に位置する文藻外語学院は台湾の教育制度では「五専」と呼ばれる語学専門学校を中心にした、台湾では唯一の外語専門学校である（中学卒業後の5年制の専門課程＝「五専」、4年制の大学課程＝「四技」、2年制の大学課程＝「二技」（2年制の大学）、社会人のための夜間大学課程である「進修四技」からなる）。創立は1966年、「五専」日本語文科の設置は1990年。副教授1名、助理教授11名（うち日本人教員3名）、専任講師9名（日本人教員2名）、兼任講師21名（日本人教員6名）。「五専」だけで日本語クラスは10クラスあり、すべての課程の日本語クラスを合計すれば千人をこえる大所帯である。</p> <p>②高苑科技大学 応用外語系日文組 同コースの創立は1983年。当初は「五専」のみ、1990年に「四技」「進修四技」を開設した。学生数は一学年8クラス、320人。専任講師4名、助理教授1名。</p> <p>【開講科目について】</p> <p>どちらの大学でも「五専」の日本語文科は基礎必修科目として「初級日本語」・聴解・会話・「習作」「翻訳」を開講し、選修科目として「日本概論」「日文文書処理」「商業文書」「日本歴史」「日本文学史」などを開講している。ただし文藻のほうでは「観光日文」「新聞日文」など細分化された授業があり、また高苑では「日本語教授法」を開講している。</p>

	<p>【国際交流】</p> <p>① 文藻：志学館大学、神田外語大学（交換留学）、純心女子大学、清泉女子大学（中国語教授）、明星大学（短期来訪）</p> <p>② 高苑：毎年 20 人程度の日本での語学研修（14 日間）</p> <p>【コース運営にかかる問題・努力】</p> <p>文藻、高苑いずれも台湾における「五専」日本語科の典型的なカリキュラムを実施しているといえよう。いずれも実務的な語学教育が中心である。ただし、そうした条件のもとでも、東京外語大・大学院卒業生によって授業が工夫されている。高苑・王講師は、卒業後に観光ガイドや通訳・翻訳の仕事につくことへの希望が多いことから、自国文化を日本語で紹介するビデオを作成し、各国の大学日本語科の学生との交流を実施している（アゼルバイジャン、ブルガリア、ミクロネシアの大学など）。</p> <p>別紙の東海大学のような教学条件には恵まれていないため、特色あるコースの設置には至っていないが、実務日本語に終始しないよう、批判的に思考する授業を創造しようとしている。これを日本で学位を取得した卒業生たちに共通する志向性として指摘していただろう。</p> <p>【卒業生の進路について】</p> <p>旅行会社、航空会社、日系企業、出版・広告業、新聞社駐在員、秘書業など。</p>
備考	<p>【受け渡し資料】</p> <p>（外大から）：本プログラムパンフレット、大学概要、大学案内 （文藻から）：大学案内（2007 年度） （高苑から）：高苑科技大学応用外語系日文組教学実践成果報告</p> <p>【インタビュー記録】</p> <p>miniDV（80 分）× 2、90 分テープ× 2</p> <p>なお、これ以外に、国立暨南大学のパンフレットを収集した。</p>

調査担当者： 野本京子、友常勉